

日本語における外来語の色彩語を含むメタファー表現

著者	王 軒
雑誌名	東北大学言語学論集
号	25
ページ	37-52
発行年	2016-12-01
URL	http://hdl.handle.net/10097/00130466

日本語における外来語の色彩語を含むメタファー表現*

王 軒

キーワード：外来語、色彩語、メタファー表現、使用頻度、共起関係

1. 研究の背景と目的

一般に、視覚に基づく形容詞から作られるメタファー表現は成り立ちにくいものであると言われている。しかしながら、「黒い噂」「黄色い声」のような色彩語の比喩的意味を用いて表される色彩語メタファー表現は日常生活の中でよく使われている(坂本・内海 2007)。色彩語を含む日本語メタファー表現について、王(2014a)では非基本色彩語「バラ色」と基本色彩語下位分類の「灰色」を、王(2014b, 2016)では基本色彩語「黒い・白い」「赤い・青い・黄色い・緑色の」を対象に考察を行い、それぞれの色彩語を含むメタファー表現の使用頻度及び色彩語と共起する語の特徴を分析した。これらの研究は主に和語の色彩語を中心に考察を行ったものである。日本語の語彙においては外来語も重要な地位を占めている。しかしながら、外来語の色彩語についても和語と同様のメタファー表現が成り立つのかについて考察した研究は少ない。そこで、本研究では、外来語の色彩語「ブラック」「ブルー」「グレー」を対象に、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下、BCCWJ)の公開形式「中納言」を用いて、これらの色彩語を含む日本語メタファー表現についてのデータを収集・考察し、その使用実態及び特徴を明らかにする。

2. 研究方法とデータの概要

本研究では、BCCWJ を使用し、「短単位」検索で「ブラック」「ブルー」「グレー」を含む表現を収集した。“gray”のカタカナ表記には「グレー」のほかに、「グレイ」という表記も存在するため、考察対象には「グレイ」を含む表現も含まれる。ただし、「グレイ」225 例に対して、「グレー」は 857 例あり、より多く使われていた。以下の分析では、これらを「グレー」で統一する。

次に、抽出したサンプル(ブラック 2045 例、ブルー 3348 例、グレー 1082 例)を手作業によって分析用例と除外例に分類した。具体的には、次のような用例は分析対象から除外した。

- ① 複合語および句：「グリーン・ブラック」「濃いブルー」など、計 484 例。
- ② 固有名詞：「ブルーギル」「グレースケール」など、計 2365 例。
- ③ 引用：『ブラック・ボックス』『ブルースカイ』など、計 1007 例。
- ④ 詩：「装幀のメタルブルーの青味を帯びた…」、1 例。
- ⑤ メタ言語：「英語のブルーの場合～憂鬱なという意味がある」など、計 45 例。
- ⑥ ファンタジー：「ブラックスター」「ブルーの証言」など、計 22 例。
- ⑦ 明喩表現：「先端ブルーみたいな色…」など、計 7 例。
- ⑧ 不明：「ロシアンブルーの表情」など、計 10 例。

上述した用例を除外した結果、「ブラック」698例、「ブルー」1115例、「グレー」721例の分析用例が得られた。それらを色彩語の用法によって分類したのが表1である。

表1 データの概要

外来語色彩語	分析用例数	字義的な意味	比喩的な意味	
			和語メタファー	英語メタファー
ブラック	698	504 (72%)	46 (7%)	148 (21%)
ブルー	1115	949 (85%)	84 (8%)	82 (7%)
グレー(グレイ)	721	671 (93%)	13 (2%)	37 (5%)

今回の調査では、「比喩的な意味」で色彩語が用いられた用例において「ブラック・ユーモア」「ブラック・リスト」「ブルー・カラー」「グレー・ゾーン」のような英語のカタカナ表記が数多く抽出された。これらの表現は慣用化された英語表現“black humour”, “black list”, “blue collar”, “gray zone”の日本語表記であると考えられるため、本研究では「英語メタファー表現」と命名する。それに対して、「ブラック企業」「ブラックになる」「マリッジブルー」「グレーな関係」のような外来語の色彩語の比喩的な意味を用いて作られた和製英語を含む日本語メタファー表現は「和語メタファー表現」と呼ぶ。

「ブラック・ユーモア」などの「英語メタファー表現」は慣用化された英語表現そのものであり、色彩語の日本語独特な使用や派生などが現れていない。そのため、これらの「英語メタファー表現」は本研究の分析対象から除外する。したがって、次節以降で分析していくメタファー表現は「和語メタファー表現」のみである。

次に、色彩語「ブラック」「ブルー」「グレー」を含む表現の意味と共起語を細かく分類すると、下記の図1～3のような結果になる。

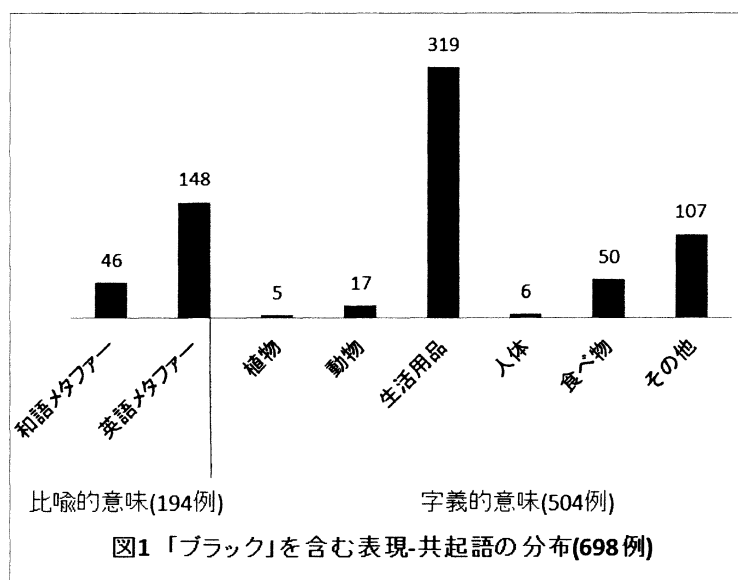


図1を見ると、「ブラック」を含む表現のうち、字義の意味を表す用例は504例があり、全体の七割を占めている。これらの用例を更に指示対象別に分けると、「ブラック」は「生活用品」の色としてよく使われている。一方、「ブラック」が比喩的意味で使われている用例は194例あり、用例全体の3割近くを占めている。

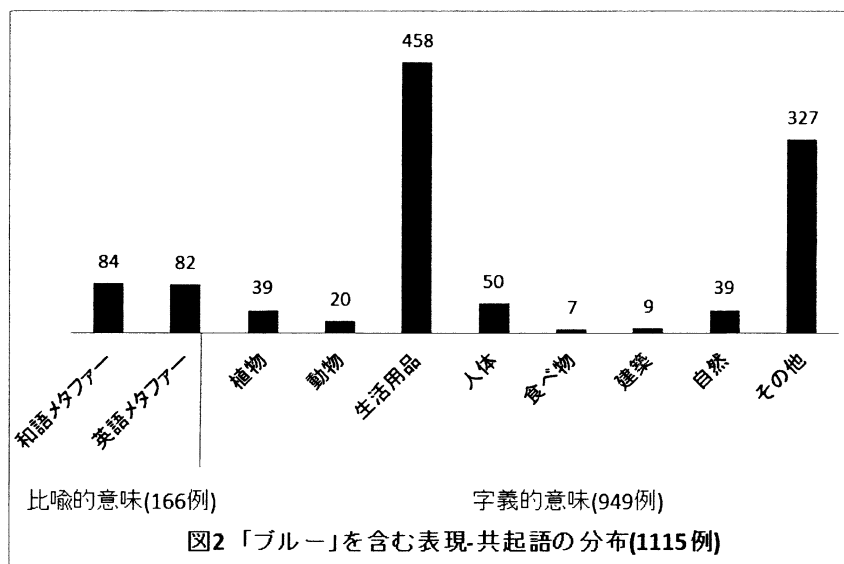
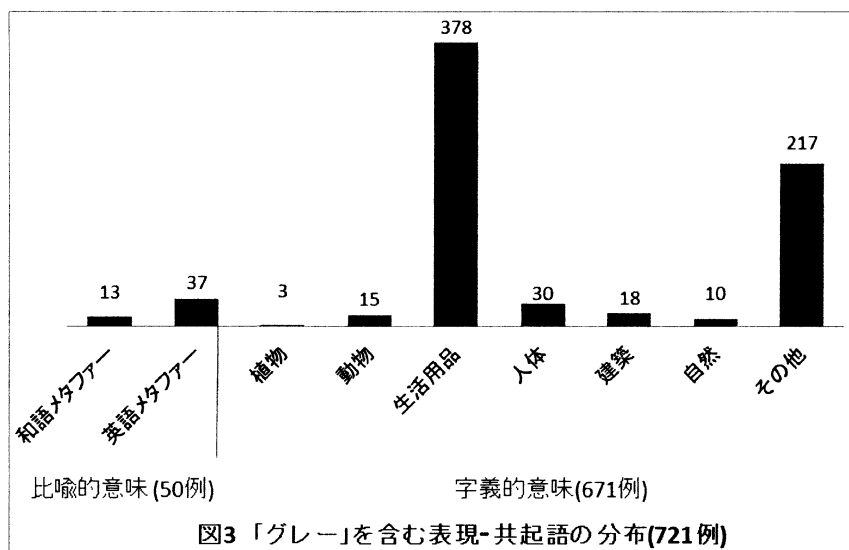


図2を見ると、「ブルー」を含む表現では949例において「ブルー」が字義の意味で用いられている。その中で比較的に多いのは、「生活用品」の色を表す用例である。それに対して、「ブルー」が比喩的意味を表す用例は166例あり、「ブルー」を含む表現全体の15%を占めている。



最後に、図3に見られるように、「グレー」を含む表現では、671例で「グレー」が字義の意味で用いられ、用例全体の93%を占めている。更に詳しい分類を見ると、「グレー」は「ブラック」「ブルー」と同様に、「生活用品」の色を表す際に使われていることが分かる。一方、「グレー」が比喩の意味で用いられ、メタファー表現として使用されている用例は比較的少なく、用例全体の7%程度である。

3. 結果と考察

3.1 「ブラック」を含むメタファー表現

今回のBCCWJによる調査では、「ブラック」を含む和語メタファー表現46例を抽出した。そのうち、「ブラック～」という表現形式は22例であり、それ以外の形式は24例が抽出された。外来語色彩語は名詞であるため、修飾語として用いられる場合は「ブラックなもの」「ブラックの人」のように「な」「の」を伴うか、「ブラック企業」のように被修飾語に直接接続して複合名詞となるかのいずれかの形式で用いられる。今回の調査では、外来語色彩語の比喩的意味の使用と共起する名詞(共起語)を考察するため、それぞれの形式間の異同に注目せず、これらを「色彩語+名詞」という大きな枠組みとして分析する。具体的な共起語の分布を表現形式に基づいて、図4と表2のとおりにまとめた。

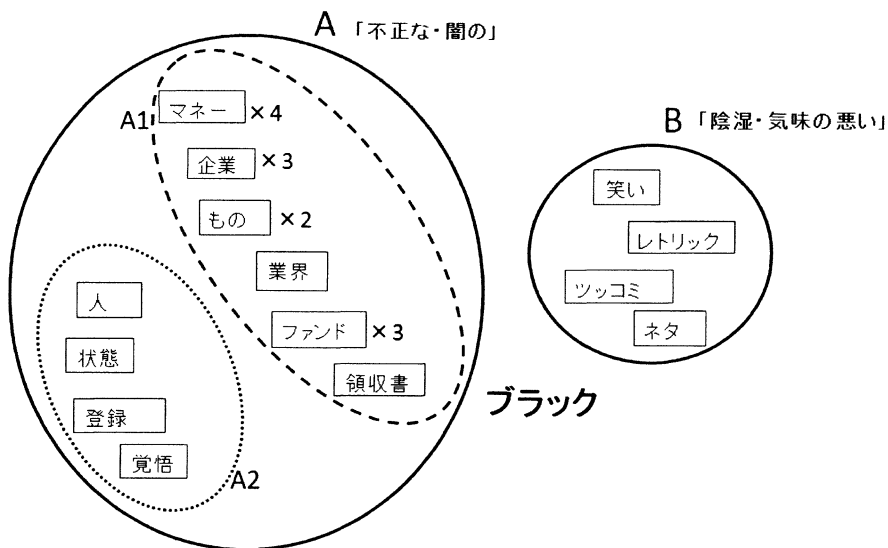


図4 「ブラック+名詞」を含むメタファー表現 (22例)

図4から、「ブラック」を含むメタファー表現において、「ブラック」が「不正である」「公明でなく、悪心がある」「陰湿・気味が悪い」という比喩的な意味で用いられていることがわかる。「ブラック+名詞」の表現形式では、「ブラック」と「マナー」との共起が比較的多く¹、これは「不

¹ 「ブラックマナー」は“black money”のカタカナ表記であり、英語メタファー表現であるが、「ブラックファンド」のようなお金に関わる日本語独自のメタファー表現の基盤となると考えられるため、本稿では分析対象として取り入れた。

正な利得」「非合法の資金、闇資金」を意味している。また、これと関連する共起語としては「ファンド」と「領収書」が挙げられる。その他に、「ブラック」と「企業」との共起も多く抽出された。「ブラック企業」は闇金や詐欺などの悪徳会社ではなく、「劣悪な職場で働かせる会社」「労働基準法に違反する会社」のことを指している。ここでの「ブラック」は「不正」という元の比喩的意味から派生された「労働基準法に違反する」「劣悪な職場環境」という意味で用いられている。さらに、「ブラック企業」から派生された表現として「ブラック業界」と、業界全体に対する「ブラックなもの」のような用例も抽出された。このように、図4のA1の「ブラック」は主に「経済金融用語」として使われている。以下で、具体的な用例を見てみる。

- (1) …フロント企業への直接融資に加え、ロンダリング（洗浄）された金が連中の懐に入り、新たなブラックマネーを生んでいる。…(LBn3_00094)
- (2) …立ち退き委託手数料を払う、あるいは販売手数料を払うという形で、いわゆるところのブラックの領収証を発行する機関を販売原価の中にそれぞれ入れているわけであり。…(OM32_00002)

例(1)の場合、「連中」（暴力団）の懐に入ったお金には「フロント企業への直接融資」のほかに、「ロンダリングされた」金もある。これらのお金は非合法的な経済活動で動き、税務当局や政府に把握されていない金を新たに生んでいる。例(1)にある「ブラック」は「不正な」「不法な」の意味をしている。直接的に「不正なマネー」「不法なマネー」を使用するより、「ブラックマネー」の方が婉曲的であり、「不正・不法」という意味の伝達効果も生き生きとしたものになり、より一層「不正・不法」の強調にもなると考えられる。

例(2)にある「領収書」は、ただの「金銭を受け取ったしるしに書いて渡す書き付け」（『デジタル大辞泉』）ではなく、「利益を分散する」ために、正規の「領収書」の中に「仲介料」「コンサルタント料」「立退料委託手数料」「販売手数料」などの様々な名義での支払いが「販売原価」として入れられ、発行されたものである。「ブラックの領収書」はクリーンな領収書ではない領収書を指す。例(2)では「ブラック」の「不正な」という比喩的意味が用いられている。

その他の共起語としては、図4のA2に示したとおりで、「人」「状態」「登録」「覚悟」が抽出された。具体例を見てみる。

- (3) …商品が偽物だったからブラック登録までされたのかどうかを知りたいんです。…(OC14_02126)
- (4) …あとクレジット会社の情報はド忘れしました。#だって、もし各々の情報が別なら消費者金融でブラックの人が銀行で借入れできる事になるじゃないですか。…(OC03_00380)

まず、例(3)の場合、ヤフーオークションで出品された「商品は偽物だった」ために、「不正な

もの」「注意を要するもの」に対してネット上で登録がされたかどうかを話者が知りたがっている。この場合の「ブラック登録」は「不正な登録」という意味ではなく、「警戒を要するものの登録」を意味している。

例(4)では、「ブラックの人」は「悪心のある人」を意味せず、金融機関の個人情報において、不払い、支払延滞などの不適格の事実を持っている人、いわゆる「マイナスに評価される情報を持つ」人を指している。

例(3)と例(4)にある金融経済用語として使われる「ブラック」は、慣用句「ブラックリスト」から派生してきた意味に基づいていると考えられる。ブラックリストは、「広義には、注意を要する人物や企業、団体といった対象の一覧表」のことを意味している。本来「ブラック」と「リスト」が複合語となることで生じる「注意を要する」という意味は「ブラック」だけが担うようになる。「ブラック」を含む日本語メタファー表現では、その「ブラック」が派生的に使われて「ブラック+名詞」の形式で用いられている。

また、辞書『大辞林』(1989)では、「ブラック」の比喩的意味として「不正な・闇の」のみが明示されているが、英語の“black”は「陰気な、暗い」「不吉な」「悲惨な」「不機嫌な」「むっとした」という比喩的意味を持っている。図4のBは英語“black”の「陰気な、暗い」という比喩的意味に基づくメタファー表現として使われている。

- (5) …「小さい頃、家の近くは山火事が多くてさ。…そんな時は、みんな避難所に行くわけよ。そして炊き出しで配られるのが、おにぎり。…「そのおにぎりは、焼きおにぎりですか」。
#このブラックなツッコミに、座布団を与えてよいものか。… (OY14_33280)

例(5)では、話者が聞き手に「小さい頃、山火事で避難する際の炊き出しがおにぎりである」と語ったのに対し、聞き手は「山火事」と「おにぎり」を関連付けて、「焼きおにぎりですか」という「気分が悪い」「不快にさせる」ユーモアを飛ばした。この「ブラックなツッコミ」は英語慣用句メタファー表現“black humor”から派生してきたものである。ただし、日本語の外来語としての「ブラック」は「道徳やタブーにわざと触れる」ほどの「残酷さ」「邪悪さ」を持っていないと考えられる。この例(5)に類似したメタファー表現として挙げられるのは、「ブラックなネタ」「ブラックな笑い」と「ブラック・レトリック」である。このように、「ブラック」の意味・用法は英語の“black”の比喩的意味がベースになっているが、“black”が持つすべてのニュアンスを持っているわけではないことが分かった。

次に、表現形式と用法の関連について考察する。「ブラック」を含むメタファー表現には、用いられる表現形式に関わりなく、英語メタファー表現「ブラックリスト」から派生された「警戒を要する(人/もの)」という比喩的意味がよく用いられている。この比喩的意味を用いた「ブラック+名詞」以外の表現形式における指示対象としては「借金・倒産」「過去」「その時の俺」「会社」などが挙げられる。文脈表現の特徴としては「ブラック+入り」「ブラック+に～」類が比較的多い。具体的には、表2に示したとおりになる。

表2 「ブラック+名詞」以外の表現形式を含むメタファー表現 (24例)

文脈表現	指示対象	用例数
～だね (ですね/だった/だ/で/だからです)	(信用情報機関) 過去 その時の俺 会社	5
～になる (なっている)	(借金・倒産) (家)	3
～入り (お入れ/入れました)	倒産(経験された方々) (在庫のない新品) (落札者さん)	7
～に書いている ～に載ってしまった/満載 ～にも登録されています	管理社会(人間性の復権をテーマとして) (返済が遅れ) (借金)	4
～って	(借金・倒産)	3
～かどうか	(借金・倒産)	1
～に対して	(借金・倒産)	1

- (6) …しかし、私のところには以前から「ブラックになると一生マイホームが買えないの
でしょうか？」～等といった質問がかなり多く寄せられており… (LBt3_00022)

例(6)は「ブラックになる」の形式で使われている。この「ブラック」は「ブラックリスト」から派生された「注意を要する(人物)」という意味で用いられている。「支払い延滞」などの不行為が金融機関の個人信用情報に登録され、「ブラックになる」。このように金融機関で「信用のない人」として登録されると、住宅ローンの申請にあたって支障が生じる恐れがある。住宅ローンが通らなないと、マイホームを買うこともできなくなる。この解釈のままを表現するより、「ブラック」の比喩的意味に基づいた和語メタファー表現である「ブラックになる」の方が簡潔であり、意味的にもつかみやすいものであると考えられる。

- (7) …筒井氏は進行するであろう管理社会に対して、人間性の復権をテーマとしてブラックに書いているのである。… (LB07_00008)

例(7)の場合、小説家筒井康隆氏が管理絶対主義社会に対して、人間性の復権をテーマとして、風刺的な作風に加え、いろいろ陰にあるもの、マイナス面について書いていると解釈できる。この「ブラック」は「不正・不法な」を意味せず、「マイナス面」「否定的な面」という意味で使われていると考えられる。これは「ブラック」の日本語に特有な使い方の一つである。

「ブラック」を含むメタファー表現は、「もの」と共起する場合を除き、前後の文脈に頼らなくても、「ブラック」が比喩的意味で用いられているのかどうか比較的判断しやすい。すなわち、「ブラック」には色彩語が字義的意味にも比喩的意味にも解釈できるような曖昧なメタファー表現がほとんどないと言える。

3.2 「ブルー」を含むメタファー表現

今回の調査では、BCCWJ を用いて「ブルー」を含むメタファー表現 84 例を抽出した。そのうち、「ブルー＋名詞」という表現形式は 21 例であり、それ以外の表現形式は 63 例であった。具体的には、下記の図 5 と表 3 に示した通りである。

「ブルー＋名詞」を含むメタファー表現 21 例のほとんどにおいて「ブルー」が「憂鬱である」という比喩的意味で用いられている。図 5 の A1 を見ると、「ブルー」は「気分・気持ち」とよく共起することがわかる。また、「憂鬱な気持ち」の反映と関連する周りの「雰囲気」、人間の「モード」「オーラ」、そして、時間を表す「時」もよく「ブルー」と共起し、メタファー表現として使われる。

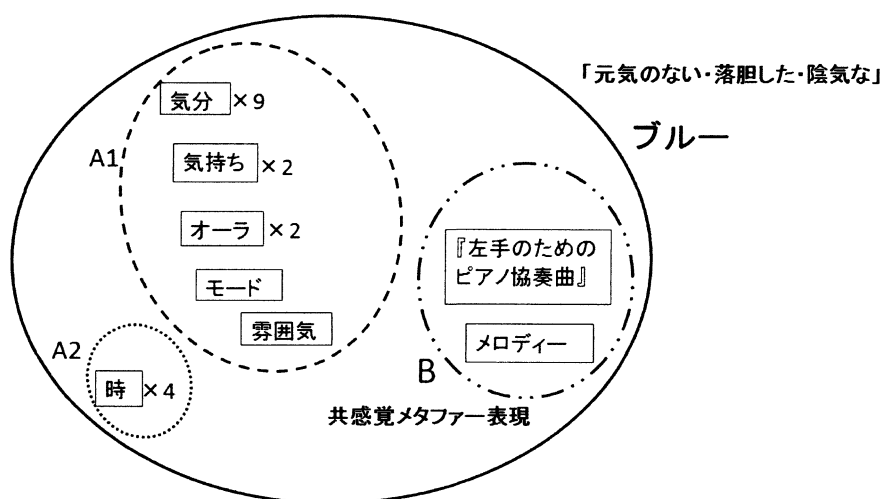


図 5 「ブルー＋名詞」を含むメタファー表現 (21 例)

- (8) …社宅のママたちとどうつきあっていけばいいのか、すごく悩んでいます。…お散歩のときに通りかかって「こんにちは」と挨拶をしても、返事が返ってこないことが多く、とても ブルーな気持ち になります。… (PM21_00036)

例 (8) では、話者が積極的に挨拶しても返事が返ってこないなど社宅のママたちとの関係づくりに悩んでいる。このような冷淡なもてなしに直面すると、自分の積極的な姿勢にダメージを与えられ、元気な気持ちもなくなってしまう。ここでは、直接的に「憂鬱な気持ちになる」を使用せずに、「ブルー」を用いた表現が用いられている。その理由の一つとしては次のように考えられる。「憂鬱」は「気持ちがふさいで、晴れないこと」を意味する。その「晴れないもの」が人の心のわだかまりであり、悩みである。これは自分の表に出せない内在的な心理状態であるため、相手に対して伝達しにくいものである。このような直接言いにくいことを「ブルーな気持ちになる」を使用することによって、婉曲的かつ効果的に伝達することが可能となる。

図5のBにある共起語は「音楽」の関連用語であり、「視覚」を表す「ブルー」と「聴覚」を表す「曲・メロディー」とが共起することによって成立するメタファー表現、いわゆる共感覚メタファー表現である。図5のBでは、「ブルー」の「憂鬱な」という比喩的意味から派生した「悲しい」という意味が用いられていると考えられる。

- (9) …ベルトランの幻想的な詩にもとづくピアノ曲『夜のガスパール』や、晩年に書かれた陰鬱でブルーな『左手のためのピアノ協奏曲』がそれをよくあらわしている。…
(LBq7_00067)

例(9)の場合、「ブルー」と曲名が共起している。『左手のためのピアノ協奏曲』は、作曲家ラヴェルが第一次世界大戦で右手を失ったピアニストのために作った曲であり、「陰鬱」な曲の節が聴く人にうっとうしさを感じさせる。例(9)は「陰鬱」と「ブルー」と重ねて、「曲」を修飾し、曲の内容の「陰鬱さ」と曲のメロディーの「悲しさ」と組み合わせ、躍動感のある表現として用いている。ここでは、「ブルー」の「憂鬱な」「元氣のない」という比喩的意味があまり目立たず、「憂鬱」から喚起される「悲しい」「うっとうしい」という意味が使われていると考えられる。

次に表現形式の多様性について、表3を見ると、「ブルー＋名詞」以外の表現形式を含むメタファー表現63例のうち、文脈表現「～になる」類と「だ」類との共起が圧倒的に多いことが分かる。指示対象が第一人称と第三人称の「気分」のほかに、「出産後」「結婚直前」に表される不安定な状態が比較的多い。ここでは、「ブルー」が「元氣のない」「憂鬱である」という比喩的意味で用いられている。

表3 「ブルー＋名詞」以外の表現形式を含むメタファー表現 (63例)

文脈表現	指示対象	用例数
～になる	(出産後)	18
(なりやすい/なってます/なったりします/なってしまう/なってきます/なってしまう/ならないです/なっていた/なりました/なります)	(抱きしめ心の色)	
	(明るい話題が少ない)	
	(主人が仕事失敗)	
～です	(彼のことを思い出して)	16
(ですね/だった/でしょ/でいた/なのです/であった)	(妊婦生活)	
	(会社)	
	(今日)	
～に	(私)	3
	(原因がなく)	
	(マリッジブルー)	
～に過ごす	(入院ということであれば)	1
	(検査までの日)	
のブルー	(ママの～)	1
	(子どもの～)	1
	(ころの～)	1
その他	(気分は～など)	5
マタニティブルー		9
マリッジブルー		8

(10) …主人が仕事で失敗をして怒られ、ブルーになってます。#食欲もなく心配なのですが、こんな時はどんな言葉をかければ、早く立ち直れますか？… (0C04_00061)

例(10)では、仕事で失敗をしてしまい怒られたことが原因で「主人」の気持ちがふさいで、落胆した気分になっている。この例では、「ブルー」が「なる」と共起して、「元気のない」「憂鬱だ」という意味のメタファー表現として用いられている。「ブルーになる」の使用によって、主人の「元気のない」心理状態を具体的な「色彩」を通して表すことができるようになり、生き生きとした表現となっている。「ブルー」は「落胆の色」とであると考えられる。

また、表3に見られる通り、「ブルー」は「マリッジブルー」「マタニティブルー」のような和製英語メタファー表現として使われている。『デジタル大辞泉』によると、「マリッジブルー」は「結婚を前にしての憂鬱な精神状態」を、「マタニティブルー」は「出産直後の女性が陥りやすい不眠・ふさぎ込みなどの一過性のうつ状態」を意味している。要するに、「ブルー」は「憂鬱な精神状態」である。この「うつ状態」は「落ち込んだ」時、「不安な」時、「寂しい」時の現れである。この意味を生かした「ブルー」を含むメタファー表現のもう一つの特徴として、「ママのブルー」「子供のブルー」「心のブルー」のような用例が挙げられる。「ママ」にとっての「不安」、「子供」にとっての「寂しさ」、「心」に抱いた「感情の起伏」が「ブルー」の使用によって、躍動感のある、同感しやすい表現となる。

3.3 「グレー」を含むメタファー表現

今回の調査では、BCCWJ から「グレー」を含むメタファー表現 13 例が抽出された。表現形式に分けてまとめると、「グレー＋名詞」を含むメタファー表現 8 例、それ以外の表現形式は 5 例であった。具体的には、次の図6と表4に示す結果が得られた。

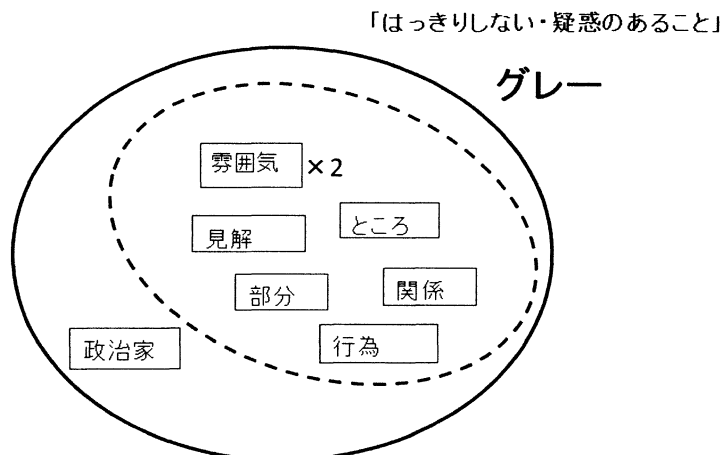


図6から、「グレー＋名詞」を含むメタファー表現では「グレー」が「はっきりしない」「疑惑

のある状態」「どちらでもない中間的な状態や態度」という比喩的意味で用いられていることがわかる。共起語としては「政治家」のような直接的に「人」を指す表現の他に、「人」とかかわる「見解」「関係」「行為」のような表現もある。さらに、「雰囲気」「部分」「ところ」のような「もの」を指す抽象的な共起語も抽出された。

- (11) …「低金利のいまが買いどきです」「家賃はドブに捨てるようなもの」などのセールストークは、後述しますが、ものごとの一面しかとらえていない考え方であり、その一面のみを伝えて、お客さんをその気にさせるのはたいへんまずいことです。#現行法において違法ではありませんが、かぎりなくグレーな行為であるといえるでしょう。
… (PB53_00485)

例(11)のような「いまが買いどき」などのようなセールストークは、物事のプラス面のみを伝えて、顧客の興味を引き付ける販売テクニックとしてよく使われている。このようなものごとの一面しか伝えていない営業行為は、詐欺で金をだまし取る行為とは異なり、現行法においては違法ではないため、「不正な行為」とは言えない。ただし、この行為には、「販売行為」をうまくすすめるために、顧客に伝わっていない物事の「マイナス面」や「不足」などを意図的に「隠す」「避ける」という潜在意識が存在すると考えられる。この「隠す行為」は、公正な行為とはいえないが、明らかな詐欺行為とは言えない。いわゆる「白ではないが、黒とはいき切れない」行為である。このような表現しにくい「限り無く黒に近い」というニュアンスが「グレー」の使用によって、効果的に表現され、われわれに伝わってくる。

「グレー」はよく「合法と違法」の中間状態を表し、「政治」「経済」に関連する場面で用いられる。それに加えて、今回の調査では、「グレー」の「はっきりしない」という比喩的意味を用いて、「人間関係」特に「友達以上恋人未満」のような「曖昧な関係」、あるいは「恋愛関係を続ける可能性が五分五分」のような状況について表現する用例も抽出された。

- (12) …僕と新しい彼…どちらでもよかった、といえるのです。…そのまま僕ががんばり続けることが、本当によかったかどうかはわかりません。しかし、そこで決着をつければ、まだ可能性があったことは事実なのです。#つまり、グレーな雰囲気を感じたときでも、必ずしも、まだダメではない。#可能性はあるのです。… (PB41_00070)

例(12)の場合、話者とふたまたをかけた「彼女」との関係を表現するために、「グレー」が「はっきりしない」という比喩的意味で用いられている。話者が諦めると、恋愛関係が続いていけなくなる。話者が諦めなければ、この恋愛関係もまだ続く可能性がある。話者である「僕」はこの恋愛関係から「身を引く」のか、それとも「そのままがんばり続ける」のか、決着がつかない心境であった。この態度は「はっきりしない恋愛関係」につながり、「はっきりしない雰囲気」を作り出すことになる。例(12)では、「グレー」と「雰囲気」との共起によって、表現しにくい「はっきりしない雰囲気」が分かりやすい表現として伝わってくる。

「グレー」が例(12)に類似したニュアンスで使われているメタファー表現として「グレーな関係」が挙げられる。「グレー」のもともとの比喩的意味は、容疑や疑惑などについて「白とも黒ともはっきりしない状態」を指している。要するに、「白は善で、合法である」、「黒は悪で、違法である」のに対し、「グレー」は「合法と違法との中間の状態」である。この意味から派生し、「グレー」は「曖昧である」という意味を持っていると理解できる。そこから「グレーな関係」は「恋人同士ではない、はっきりしていない関係」という意味に派生してきた。この用例は外来語「グレー」を含むメタファー表現の独自の使い方であると思われる。

表4「グレー＋名詞」以外の表現形式を含むメタファー表現 (5例)

文脈表現	指示対象	用例数
～である/で	今現在 (確認検査を受けることなく) (現行法では)	3
～なんじゃない	(ライブドアの判断)	1
～まま	(自分)	1

次に、「グレー＋名詞」以外の表現形式を含むメタファー表現(表4)を見ると、用例数が5例しかなく、「グレー＋名詞」以外の表現形式ではほとんど使われていないことがわかる。このうち、「法律」にかかわるものが2例あり、ほかには「グレー」を用いて、「健康面の情報」「性格」「感染の確認検査」の「はっきりしていない状態」を表している。具体的な用例を見てみる。

- (13) …健康面で良くないという情報やそうでもないという情報が沢山あり、どれを信用していいのかわからなくなってます。…今現在グレーであると考えるのが一番無難な気がします。… (0C08_05349)

例(13)では、「グレー」が「である」を伴って「どちらでもない中間的な状態」という比喩的意味のメタファー表現として使われている。たくさんの「情報」の中に、「健康面でよくない」情報と「健康面でよい」情報があり、どの情報を信用した方がよいのか分からないため、話者が「疑惑のある状態」に陥っている。このような表現しにくい「疑惑のある状態」を、「グレー」の使用によって簡潔かつ効果的に伝達することができると考えられる。

4. 調査結果の分析：「和語」の色彩語との対照

4.1 使用頻度

今回の調査では、日本語における外来語の色彩語「ブラック」「ブルー」と「グレー」を含むメタファー表現を考察した。今回の調査結果から得られた用例数及び使用頻度と王(2014a, b; 2016)による「黒い」「青い」「灰色」を含むメタファー表現の調査結果とを整理すると、下記の表5に示した通りの結果となる。

表 5 使用頻度の比較

色彩語	色彩語を含む表現 の用例数	メタファー表現の 使用頻度
ブラック	698	46 (7%)
黒い	3900	85 (2%)
ブルー	1115	84 (8%)
青い	2684	28 (1%)
グレー	721	13 (2%)
灰色	927	112 (12%)

表 5 から、外来語基本色彩語「ブラック」「ブルー」を含む表現がメタファー表現として使用される頻度は和語「黒い」「青い」を含む表現のメタファー表現としての使用頻度より高いことがわかる。この使用頻度の差の原因の一つとして考えられるのは表現形式の多様性の違いである。王 (2014b) によれば、「黒い」では「黒い＋名詞」が用例のほとんどを占め、他の形式はほとんど用いられないのに対して、「ブラック」を含むメタファー表現では「ブラック＋名詞」のほかに、「ブラックになる」「ブラックに載ってしまった」などのような表現形式も多く使われている。共起できる文脈表現が増えると、使用される頻度も増えると考えられる。もう一つの原因は英語メタファー表現または和製英語の日常生活での浸透にあると考えられる。例えば、「ブラック」の場合、英語メタファー表現“black list”の意味に基づいて、「ブラック入り」「ブラック満載」のような和語メタファー表現がたくさん派生されている。また、「ブルー」を含むメタファー表現について、日本語には「結婚前のうつ状態」「出産直後のうつ状態」などのような日常生活における生活実態や社会問題を端的に指し示す言葉がないために、そのような概念を表す表現として「マリッジブルー」「マタニティブルー」という和製英語のメタファー表現が使われるようになってきており、これらの表現はその伝達しやすさと簡潔さにより日常表現として定着し高頻度で使用されている。

一方、基本色彩語の下位分類に属する「グレー」のメタファー表現の使用頻度は「灰色」より低いという結果が得られた。「灰色」が複数の比喩的意味を持っていることが使用頻度の差とつながる一つの原因であると考えられる。「グレー」は「はっきりしない状態・態度」という比喩的意味で用いられることがほとんどであるのに対し、「灰色」は「暗い気持ちで、心に喜びのない状態、寂しく陰気である」という比喩的意味でもよく用いられている。また、「灰色」と共起する語の中には「灰色高官」「灰色議員」のような慣用化された表現が多くあり、そこから更に派生された表現としては「灰色領域」「灰色文献」「灰色措置」などが挙げられる。このように、「灰色」を含むメタファー表現は派生表現が作りやすく、生産性が高いのに対し、「グレー」は慣用化された英語表現を基にした「グレー・ゾーン」「グレー・カラー」のような固定化された表現で使われることが多く、柔軟性が低い。この生産性の違いが「グレー」を含むメタファー表現の使用頻度が「灰色」より低い結果につながると考えられる。

最後に、色彩語の分類の視点から使用頻度の差を見ると、和語では基本色彩語「黒い」「青い」を含むメタファー表現の使用頻度が基本色彩語の下位分類に属する「灰色」の頻度に及ばないの

に対して、外来語では基本色彩語「ブラック」「ブルー」を含むメタファー表現の使用頻度が基本色彩語の下位分類に属する「グレー」の使用頻度より高いことがわかった。

4.2 共起関係の共通点

次にメタファー表現における色彩語と共起語の関係を外来語と和語をペアにして考察する。今回調査を行った外来語色彩語のメタファー表現と王(2014a, b; 2016)で論じられている和語のメタファー表現における共起語の特徴を比べると、「黒いーブラック」「青いーブルー」「灰色ーグレー」のうち、「黒い」と「灰色」のペアだけに共通点が見られることがわかる。まず、「黒い」と「ブラック」をペアで比較してみる。王(2014b)によれば、「黒い」を含むメタファー表現において、「黒い」は「人」に関連するもののほかに、「金」のような事物や「噂」のような抽象概念と共起することが多い。既にみたように「ブラック」もよく「マネー」や「ファンド」のような「お金を意味する語」と共起する。その他に、「黒い・ブラック」は「悪意の」という比喩的意味で用いられており、どちらも「笑い」と共起しやすいことが分かった。ただし、「黒い笑い」は「笑い」の「気味悪さ」「滑稽さ」を強調するのに対して、「ブラックな笑い」の方には「邪悪な」「風刺的な・苦しい」というニュアンスが含まれている。

「グレー」と「灰色」を含むメタファー表現の共起語を見ると、「疑惑のあること、はっきりしないこと」という比喩的意味により作られたメタファー表現では、「部分」「ところ」が「グレー」「灰色」の共通の共起語として使われている。また、「灰色」を含むメタファー表現「灰色高官」「灰色議員」と完全に一致する表現ではないが、「政治家」は「グレー」と共起し、メタファー表現として使われている。「高官」も「議員」も「政治家」であるため、これらの語も「灰色」と「グレー」にある程度共通する共起関係であると考えられる。

次節で詳しく述べるように、「青い」と「ブルー」は異なる比喩的意味で用いられており、共起語にも共通点が見られない。

4.3 共起関係の相違点

最後にペアごとに共起関係の相違点について考察する。まず、「ブラック」と「黒い」を含むメタファー表現における共起関係の相違点を見てみると、「劣悪な職場で働かせる会社」を意味する「ブラック企業」は「黒企業」「黒い企業」と表現することも可能であると考えられるが、今回の調査では、「企業」と「ブラック」との共起がほとんどであり、共起関係が定着した、意味のつかみやすいメタファー表現としてよく使われていることが確認できた。また、「ブラック」は「状態」「人」「登録」のような表現とよく共起する。このようなメタファー表現では英語メタファー表現「ブラックリスト」から派生してきた「警戒を要する(人/もの)」という比喩的意味が用いられているのに対して、「黒い」はこの意味では使用されない。そのため、「黒い」は「状態」「登録」のような語とは共起せず、「人」と共起する場合も「ブラック」とは違う意味になる。その他に、「笑い」が「ブラック」とも「黒い」とも共起するのに対し、「ツッコミ」「ネタ」のような表現は「ブラック」を選好する傾向が見られ、英語メタファー表現「ブラック・ユーモア」から派生された「陰湿・気味の悪い」という意味を持つ創造的なメタファー表現として使われることが分かった。

また、「ブラック」と「黒い」ではメタファー表現のバリエーションに違いが見られる。王 (2014b) によると、「黒い」は心理状態を表す抽象度の高い語(「野望・力」など)や色彩語の意味解釈が曖昧になるような語(「染み・影」など)と共起しやすく、「曖昧性」の強いメタファー表現の数が割合に多いのに対し、「ブラック」は「もの」以外に色彩語の意味解釈が曖昧となるような語とは共起せず、曖昧なメタファー表現があまり見られなかった。

上に挙げた共起関係に関する相違点の他に、表現形式のバリエーションは「ブラック」のほうが豊富に見られ、「色彩語＋名詞」以外の表現形式を持つのは「ブラック」を含むメタファー表現のみであるという点も「ブラック」と「黒い」の相違点として挙げられる。

「ブルー」と「青い」を含むメタファー表現における共起関係の相違点を見ると、「ブルー」は「気分」「雰囲気」「時」などと共起しやすく、「憂鬱な感情」という比喩的な意味で多く用いられていることが分かった。それに対して、王 (2016) によれば、「青い」は人称表現と共起して「修行・知識などが不十分だ。まだ一人前でない」という比喩的な意味で数多く使われ、「憂鬱な感情」という比喩的な意味は持たない。また、共感覚メタファーの視点から見ると、「青い」は「匂い」「空気」「香り」のような「嗅覚」を表す表現と共起し、「匂いのすがすがしい様子」を意味する。それに対して、「ブルー」は「メロディー」のような「聴覚」を表すものと共起しやすく、「憂鬱な・陰気な」という比喩的な意味から派生された「悲しい・うっとうしい」という意味で用いられている。

最後に、「グレー」と「灰色」を含むメタファー表現の共起語を比較する。「灰色」とは異なり、「グレー」には「寂しく陰気である」という比喩的な意味がないため、「生活」や「日々」のような語とは共起しない。また、すでに述べたように、「グレー」は「灰色」と同じく「疑惑のあること・はっきりしない」という比喩的な意味で用いられているものの、「灰色」の共起表現が比較的豊富であるのに対し、「グレー」を含むメタファー表現の共起語は数が少ない。加えて、「灰色」は「議員」「措置」「決着」などいわゆる政治・法律・経済関係のような比較的公的な場面でよく使われているのに対して、「グレー」は「雰囲気」「関係」のような日常生活にある「はっきりしない状態」、特に「人間関係」または「人の態度」を表現する際に使われる傾向が見られた。その他に、王 (2014a) によると、「灰色」は「声」のような「聴覚」を表す表現と共起しやすく、「暗い・寂しい・陰気なこと」という比喩的な意味の共感覚メタファー表現としてよく使われるが、「グレー」は共感覚メタファーとしては用いられていない。

5. まとめと今後の課題

今回の考察では、BCCWJ で外来語の色彩語「ブラック」「ブルー」「グレー」を含むメタファー表現を抽出し、その特徴を調べた。まず、外来語色彩語も和語色彩語と同様にメタファー表現に用いられ、3 語とも「～＋名詞」をはじめとする様々な形式で使われていることがわかった。また、外来語色彩語の比喩的な意味について、「ブラック」は「不正な・闇の・陰湿・気味の悪い」という比喩的な意味で用いられ、金融経済用語とよく共起するのが特徴である。また、「ブラック」を含むメタファー表現の中には、英語メタファー表現 “black list” “black humour” から派生されたメタファー表現が圧倒的に多い。次に、「ブルー」は「元気がない・落胆した・陰気な」とい

う比喩的意味で使われ、「気分・気持ち」「雰囲気」と共起しやすい傾向があることがわかった。最後に、「グレー」は「はっきりしない・疑惑のあること」という比喩的意味で用いられている。「グレー」と共起する語としては、「政治・経済」に関連する語のほかに「恋愛関係」などの人間関係に関する語が挙げられる。

また、本稿では、今回得られた外来語色彩語によるメタファー表現の調査結果と王 (2014a, b ; 2016) で論じられている和語色彩語の調査結果とを比べ、「ブラック」は「黒い」ほどメタファー表現にバリエーションが見られないこと、「ブルー」と「青い」には共通する用法が見られないこと、そして外来語「グレー」の共起表現は和語「灰色」の共起表現ほど豊富ではないことを主張した。さらに、今回の調査では、外来語と和語で使用頻度に差があることが明らかになった。しかしながら、その使用頻度の差の理由についてはまだ議論の余地がある。今後は、外来語と和語の違いによる共起関係の共通点・相違点や使用頻度の差についてより深く考察するために、「英語メタファー表現」が外来語色彩語メタファー表現にどのような影響を与えるのかという観点から、基本色彩語と非基本色彩語における外来語と和語のペアに関する追加考察を行う必要がある。

上記の課題に加え、色彩語メタファー表現の一般的性質についての考察を深めるために、他の常用色彩語についても考察を行い、日本語における色彩語メタファー表現の特徴を包括的に検討することも今後の重要な課題である。

* 本稿は 2016 年 5 月 14 日に中国同济大学で開催された「日本語教育と日本語学研究国際シンポジウム」において行った研究発表の内容に加筆修正を行ったものである。

参考文献

- 王軒 (2014a) 「色彩語メタファー表現に関する研究—『バラ色』と『灰色』を例にして—」 第 5 回コーパス日本語学ワークショップ. 於国立国語研究所. 2014 年 3 月 6 日
- 王軒 (2014b) 「色彩語メタファー表現の特徴—コーパスによる共起語の考察」東北大学大学院文学研究科言語科学論集第 18 号, pp. 1-12
- 王軒 (2016) 「基本色彩語を含む日本語メタファー表現の考察」東北大学言語学論集第 24 号, pp. 141-156
- 楠見孝 (2007) 『メタファー研究の最前線』ひつじ書房
- 坂本真樹・内海彰 (2007) 「色彩形容詞と名詞の相互作用による色彩形容詞メタファーの認知効果」認知科学 14-3 pp. 380-397

参考サイト

iFinance 「金融経済用語集—ブラック情報（ブラックリスト）とは」
<http://www.ifinance.ne.jp/glossary/creditcard/cre185.html> (2016 年 10 月 11 日参照)